

# 人類的課題を乗り越えていく希望の年へ!



大村洋子議員(右)の質問に対して市側の答弁を聞く市議団。左からねぎしかずこ議員、井坂なおし議員

新しい年がやってきました。

人類の歴史をひもとくと何度となく感染症の脅威にさらされてきたことがわかります。未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症。何としても食い止めなければなりません。さらに私たちに脅かすのはCO2の増加に伴う猛暑、風水害等の異常気象です。

しかし、今年は年頭で「核兵器禁止条約の発効」が実現し、核兵器廃絶に大きな前進をもたらすでしょう。

地域に目を転じれば、私たちの住む横須賀ではCO2を多量に排出する石炭火力発電所建設が進められ、日米政府の意のままに原子力空母が居座り、「核戦略」にさらされ続けています。地域の問題と人類的課題を結びつけながら、2021年今年を希望の年とするために私たちは全力でがんばります。

## 安心して

### PCR 検査を受けられる体制を



横須賀共済病院に設置された「第2PCRセンター」の内覧会が行われ、大村洋子議員とねぎしかずこ議員が参加しました。寒さ対策や一方通行の動線、感染防護徹底の説明を受けました。車いす用のスロープも設置されていました。

コロナが心配という方  
(発熱・咳・のどの痛み)

まずは

かかりつけ医に相談

迷ったら

神奈川県「発熱等診療予約センター」

電話：0570-048914、045-285-1015

受付時間：午前9時～午後9時（土日祝日を含む）

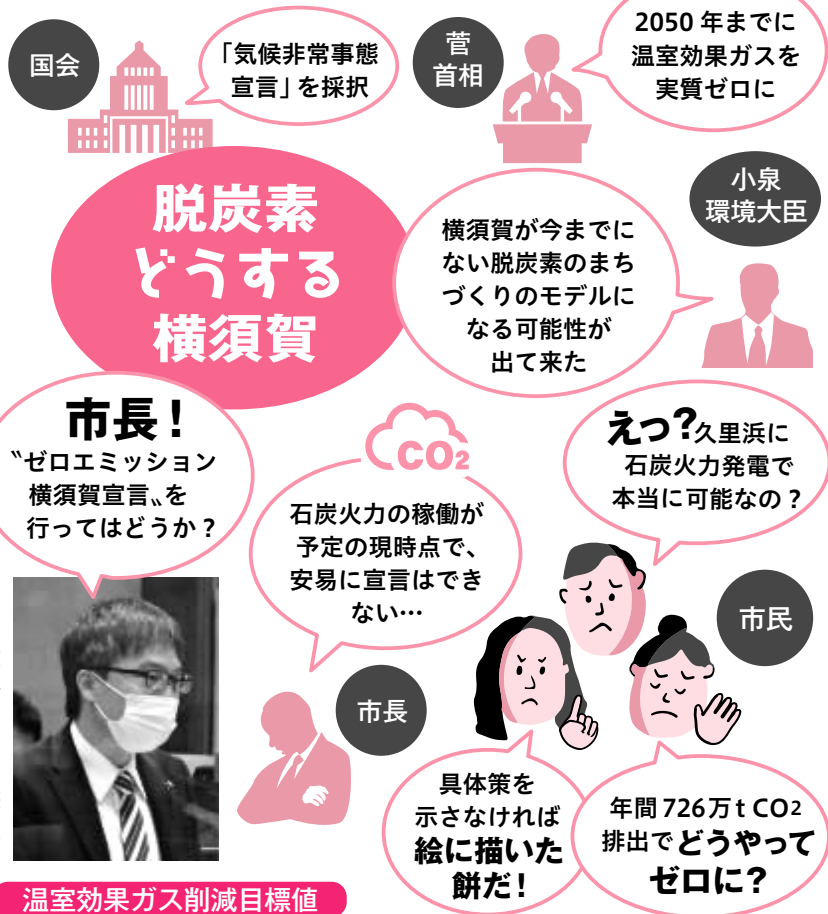
感染したかも…  
濃厚接触者  
らしいという方

帰国者・接触者相談センター  
電話：046-822-4308  
平日：8時30分～20時  
土休日：9時～17時  
FAX:046-822-4874

コロナが怖くて引きこもりがちな65歳以上の方へ

希望する方の費用の一部が助成されます。

PCR検査の自己負担は1万円、抗原定量検査は1500円で受けることができます。濃厚接触者でもなく、疑わしい症状もないという方が、感染の有無を確認できれば、安心して活動の再開もでき、心身の衰えを防ぐことができます。 → 詳しくは市のホームページや市広報1月号または 822-9996（市健康長寿課）



2030年まで国は26%、県は27% 2029年まで横須賀は24.6%? 市長には得意のスピード感を発揮してほしい!

## 「グリーンカーボン 市長が答弁 ブルーカーボンを進める」と

一般質問において井坂直議員は森や緑などの植物がCO2を吸収することをグリーンカーボン、アマモなどの海藻が炭素を吸収すること、海そのものがCO2を吸収して海底の泥の中に貯蔵することなどを総じてブルーカーボンと呼ぶことを紹介しました。

海では植物性プランクトン等の働きで、吸収が排出を上回る人が多いこと、東京湾はCO2の吸収源になっていることを市長に紹介しました。このことから、さらに農業や漁業など第一次産業の振興とあわせて、温室効果ガスの吸収源という新たな活用を進めることを求めました。

市長はグリーンカーボンやブルーカーボンの取り組みの導入について検討することを指示していると答弁。海の藻場や緑の保全がCO2の減少の流れにつながるということが再認識されました。



# 学校が変わる!

## 「GIGA スクール構想」

### 電磁波の影響は大丈夫?



教室内の児童生徒に1人1台のパソコン（GIGA スクール構想）という今までとは全く違う環境になろうとしています。大村洋子議員は無線ランによる電磁波の児童生徒の身体への影響は大丈夫なのかと質問。「児童生徒の手の届かない高いところ1か所のみアクセスポイント（電磁波のどるところ）がある。人体に問題はない。」と教育長は答弁。イギリスやフランスでは16歳以下の子どもの携帯電話は控えるよう勧告が出されています。少なくとも過敏症の児童生徒への対応は必要ではないでしょうか。

## ジェンダー平等

## 「選択的夫婦別姓」

### 市長の答弁は抽象的

「ジェンダーギャップが153か国中日本は121位。世界で唯一日本だけが夫婦の氏と一緒にないといけない法律。これはとても奇異だ。」と大村洋子議員が迫ると市長は「いわれない生活上の不便さの解消は私の責務」と言いながら一問一答の質疑では「日本古来の生き方と日本人」「宗教的情操」と抽象的な答弁を連発。「あらゆる差別偏見を解消したい」というのであれば、率先して「選択的夫婦別姓」を推進してほしいと思います。



大村洋子議員



絶対に

## 2度と起こしてはならない

### 保育ママ宅での乳児死亡

- 2010 横須賀市の保育制度のひとつである家庭保育福祉員（保育ママ）宅でこの制度を利用していた乳児が死亡
- 2014 乳児の遺族が、保育ママと横須賀市を相手に裁判を起こす
- 2020 5月 第1審で、保育ママと横須賀市に損害賠償を命ずる判決が出る
- 2020 6月 横須賀市がこれを不服として控訴する
- 2020 10月 和解が成立する

ねぎしかず議員は、乳児死亡から10年、裁判開始から6年という長い年月はご遺族にとっていかばかりであったか、と思いをはせながら、この問題を委員会で取り上げました。裁判は和解が成立しましたが『今後、保育する乳幼児の安全に最大限の注意義務を尽くすよう努力すること』という遺族からの意向を重く受け止め2度とこのようなことがないように求めました。



ねぎしかず議員



急がれる

## 全中学校への学校司書の配置

学校司書が小学校には全校に配置されているものの、中学校では23校中8校のみにとどまっている問題でねぎしかず議員は、これまでの検証結果から、全中学校への配置を速やかに決断するよう、求めました。

教育委員会が提出した「点検・評価報告書」に掲載された学校図書館利用授業数（配置された8校での合計）が、平成30年の211回から令和1年は759回と4倍近くに増えていることを示しながら、司書配置の効果は明らかだと指摘しましたが、2018年からの2年間の検証期間が過ぎてもなお「さらに検証をしていく」と教育長は消極的な姿勢に終始しました。

来年度からは中学校においても《生きる力をはぐくむ》ため、調べ学習などに力点を置く教育に舵が切られることとなっており、学校司書は、ますます大切な存在となること、また、パソコンタブレットが生徒に一人一台貸与されネットでの調べ学習も始まろうとしている中、ネットの膨大な情報に取捨選択できる能力が不可欠となるため、それを養ってくれる学校司書の全校配置を強く求めました。

## 住友重機械工業が横須賀市に寄付

## 貴重な宝!

### 浦賀の「れんがドック」を大切に残していきたい



横須賀は造船の歴史あるまち。市民に返還されることを強く要求している横須賀基地内の「石積みドック」同様、浦賀の「れんが積みドック」も大変貴重です。日本共産党市議団は長きに渡り無償譲渡を希望してきました。地域の声、市民の声を活かした施策となるよう尽力してまいります。

## 陳情

「思いやり予算」は医療や福祉・子育てに

### 米軍への思いやり予算の廃止を求めます

在日米軍駐留経費負担、いわゆる「思いやり予算」は、日米地位協定では在日米軍の維持経費は全てアメリカ側の負担と規定しています。しかし、2020年度の日本政府は1993億円を予算計上し、基地内で使用する光熱費や水道代も含まれています。これらは私たちの税金が原資です。

今回の総務常任委員会では、思いやり予算の廃止を求める意見書を、横須賀市議会として国に提出することを求める陳情が出されました。陳述者の方は、「コロナ禍で失業が増えるなど、国民の生活は大変苦しくなっている。国の財政は国民生活を支援するために優先的に使うべきで、日本側に支払い義務がない思いやり予算の廃止を求める」と訴えました。

井坂なおし議員は防衛省の資料から、2018年度の在日米軍の電気、ガス、水道、下水道、暖房用などの燃料代が合計396億5000万円に上ることを指摘して、陳情に賛同しました。



12/13映画「ザ・思いやり」のりラン・バクレー監督が横須賀で講演。ユーモアも交えながらのお話と会場との活発なやり取りで「基地とお金」について深めることができました。

## 日米合同の原子力防災訓練

### 中止で大丈夫?

佐世保市は原子力防災訓練を開催したが

2007年から行われている日米合同原子力防災訓練が、今回初めて中止となりました。コロナ禍において原子力災害は起こらないという保証はありません。2つの軍事用原子炉を持つ原子力空母ロナルド・レーガンが11月に帰港し、例年通りに来年5月までメンテナンス修理を行う予定です。また、12月に原子力潜水艦が横須賀港に入港、原子炉が3つ市街地のそばにある状態です。さらに現在はコロナ禍であり、避難所の3密と放射能被ばくを防ぐ密閉と遮断の問題があります。

井坂なおし議員は、本来ならば日本政府が率先して訓練を主体的に行い自治体を支援して参加を呼びかける形が望ましいと主張しました。また、参加が困難ならばオンライン会議等により、情報伝達・共有を行う観点で、訓練の一部を机上訓練で実施することも可能ではないかと追及しました。災害への危機意識をもつことは、行政の大事な役割ではないでしょうか。